さいたま市立泰平小学校

# 学校だより

児童数：６００名

第６０４号　　令和7年10月31日　発行
〒331-0801 さいたま市北区今羽町６２８
TEL　048-651－5637
FAX　048-651－4831
・ホームページ　http://taihei-e.saitama-city.ed.jp/
・E メール

学校教育目標 ◎かしこく　◎なかよく　◎たくましく　◎ 心ゆたかに

## わたしの、ぼくのまち

校長　佐藤　信孝

本校の所在地である今羽や本郷、吉野という地名が気になり、校長室にある資料を漁ってみました。

まずは、今羽。「大宮上尾人脈氏」によれば、今羽の名は明らかではないけれども、アイヌ語の「コンパ」からきているということでした。「コン」は「サケ、マス以外の魚の掘るホリ」、「パ」は「崎」という意味があるそうです。昔から水の豊富な土地だったようです。次に本郷。本郷町にお住みになり大宮市立南小学校（現さいたま市立大宮南小学校）等の校長先生をされていた黒須元治先生の「この道　一田舎教師の足跡」によると、本郷は「本村」という意味で、地方の開け始めた元の村という意味だそうです。明治の町村制が布かれたときには他の６村と合わせて「大砂土村」（大きかった３つの村、大和田、砂、土呂の名前を折衷して「大砂土」になったそうです）に合併され、「西本郷」（「東」は川口市元郷のこと、ちょっと遠くと比べていたのですね）と呼ばれたときもあったそうです。最後に吉野。字からすれば、「良い野」または水辺に近いことから「葦」が生えていたのか。校長室にある資料に由来につながるものをみつけられなかったので、ネットで調べてみました。Wikipedia によれば、1489 年の資料に「吉野村」という記載のある資料もあるということでした。水の豊かなこの地域、悠久の原風景や人々の暮らしが想像できます。

私は、福島県いわき市の小さな港町に生まれ、高校を卒業するまで過ごしました。生まれた町は「四倉」と言います。子どもながらに、「大きな四つの倉があったから『四倉』っていうんだろうな」と考えていました。大人になって調べてみるとその土地をおさめていた岩城氏の重臣・四倉家が住んでいたことが理由らしく、予想が外れ、少しがっかりしました。家業が漁師ということもあり、私は一年中潮風を浴び、海を身近に感じながら育ちました。子どもの頃の記憶を思い浮かべてみると、よく遊んだ魚市場裏の道路や友達の家の近くの空き地でいつもやっていたゴムボール野球、磯でカニや貝を採った場面が浮かびます。また、お使いに行かされた八百屋さん（八百屋と言ってもいろいろな商品を売っていてその店で揚げていたカツが大好きでした）のおじさんが町内の運動会の世代別リレーで転んだことや、放課後よく行っていた駄菓子屋のおばちゃんが私を「おぶくん」と笑顔で呼んでいたことも思い出します。

泰平小学校の子どもたちもきっと、この今羽、本郷、吉野のまちの家の周りや近所の遊んだ場所、よく行ったお店、いつも登下校中に立って声をかけてくださる地域の方々等々が幼少期の風景として記憶に残ることでしょう。それは「自分は何者か」という認識を育て、様々な場面での判断・決断の基になる「アイデンティティ」の確立につながります。幼少期は、主に家族や身近な養育者との関係を通じてアイデンティティの形成が行われると言われ、子どもは自分と他者との区別を学び、基本的な信頼感や自己効力感を獲得し、健全なアイデンティティの基礎が形成されると言われています。家庭や地域での日常的な関わりの中、行事やお祭りなどで存在を認められ、役に立ち、他者にさらに認められることがとても大切なことです。また、子どもたちが育ったこの「まち」を振り返るとき、よい思い出が一つでも多くあること、それは子どもに自信をもたせ、心のよりどころの一つになることと思います。子どもたちには、家庭での温かな関わりだけでなく、地元での生活、催し物への参加を促していただければと思います。

日頃より児童の安全な登下校を見守っていただいている地域の皆様、保護者の皆様。皆様のご尽力は、児童の安全確保や犯罪の抑止力以上に、児童の成長に良い影響を与えています。今後とも、ぜひ、温かく声をかけ、関わっていただければ幸いです。１１月もどうぞよろしくお願いします。